

#### 4. 学校を基盤とした犯罪防止策

学校を基盤とした犯罪防止活動には、1) モラル教育、2) 薬物の防止、3) 暴行の防止、4) 行動変容という4タイプの活動がある。

##### (1) 行動のための規範を設ける活動

若者の多くは、家庭ではどのような行動がよい行いなのかについて首尾一貫した規範を学ぶことがない。多くのプログラムが、規則やよい行動の規範や、良い行動のための期待の基本的な事項を教えるために開発されている。これらのプログラムは、非行やドラッグの使用、飲酒を減少させるうえで効果をあげている。

BASISというプログラムは「規範的」な手段を用いるもので、民間に普及している活動である。

BASIS は、明快な校則のセットである。生徒がどれだけ規則に従ったか、また従わなかったかといった学校での行動が、コンピューターソフトウェアに記録される。そのコンピューターシステムは、毎日の授業中と授業外の時間に、どのように各生徒が行動しているか、教師達が追跡することを可能にするものである。生徒は、良い行いによって、褒められ、規則を破った時は、罰を与えられる。そのコンピュータープログラムは行動記録を作成し、行動記録は、各生徒の両親にも開示される。

このプログラムがどれだけ効果をあげたかについての評価によると、首尾一貫した執行と積極的な再執行の実施が、問題行動について多大な効果があったことを示している。このプログラムに加わった生徒は、クラスでは授業に対して注意を払うようになり、授業を妨害することも少なくなった。

##### (2) 薬物の防止

ドラッグ使用や飲酒は、アメリカにおける犯罪や暴力と深く関連している。薬物防止の主な活動は、以下の5つのタイプである。

- 1) 情報
- 2) 恐怖の喚起
- 3) 倫理的アプローチ

#### 4) 情緒教育

#### 5) 拒否能力のためのトレーニング (resistance training)

情報についての活動では、教師や警察官はドラッグやドラッグの害について、生徒に指導する。恐怖を喚起する活動では、ドラッグや飲酒と関連する危険について説明する。情緒教育（人間味のある教育）では、生徒達の自己評価を高め、責任のある決定をして行動するよう指導する。拒否能力のトレーニングでは、友達や遊び仲間達からのドラッグや飲酒の誘いをどのようにして断るのかを指導する。

これらの活動による具体的な成果はあがっていない（評価）。ドラッグやその影響についての情報と、なぜドラッグ使用が悪いのか生徒を指導すると、時として生徒のドラッグに対する好奇心をあおる結果になってしまうことがある。

この種の活動の一例として、DAREプログラムが挙げられる。DAREは、最も民間に浸透した、アメリカ国内で多くの資金が供給されている防止活動である。これは1) から5) までのタイプのアプローチを組み合わせた取り組みになっている。

まず、警察官が小学校を訪問し、ドラッグについて生徒達に講義する。また、生徒達に自己の怒りの感情にどのように対処するかを指導する。

DAREプログラムによる、ドラッグ使用や、非行における目立った効果は見られない。しかし、生徒達による喫煙はこれによって減少している。

拒否能力をトレーニングする取り組みは、薬物非行を減少させることに関しての効果をあげている。なかでも最も効果的なプログラムは、社会性の能力 (social skills) と拒否する能力の両方を伸ばしている。

例えば、ALERT プログラムは、生徒達はドラッグが存在しそうな状況を想定してロールプレイを行い、その中でどのように遊び仲間からの誘惑を拒否するかを身につけていくものである。このプログラムを通じて、生徒によるマリファナの使用を減少させることができた。ただし、飲酒の減少は低かった。

以下では、薬物非行防止活動について、ボストンにおける具体例をあげて説明する。

#### ・薬物非行防止の事例

##### 「ボストンドラッグ対策 (BAD)」 (Boston Against Drugs)

「ボストンドラッグ対策 (BAD)」は、ボストン近郊の若者によるドラッグ使用と、飲酒の減少を目的としたドラッグ防止活動である。

##### <資金>

ボストンドラッグ対策 (BAD)は、3つの資金源により成り立っており、そのうち

ボストン市の助成が最大の部分を構成している。本部メンバーは、市の行政官である。他の財政源としては、州、連邦政府の薬物およびアルコール依存症防止センター（Center for Substance Abuse Prevention）がある。また、個人、企業、公共施設や他の同様のグループからの資金の供給もある。

#### <実施内容>

BADは、市本部におかれたコアグループと、ボストン隣組(neighborhoods)を基盤とした「チーム」が中心となり活動している。各々のコミュニティには、異なる問題があるため、各コミュニティチームは、特定のコミュニティ問題で大きな成果を得るために、その活動をコミュニティに対応させる形でカスタマイズしている。

例えば、BAD南ボストンドラッグ対策チームは、ヘロインの使用と自殺を防止することに特に重点をおいて活動している。また、BADチャールズタウンドラッグ対策チームは、公共の場での飲酒と、未成年へのアルコール販売の減少のために活動している。

南ボストンでは、多くの子どもが、町や家庭でドラッグを使用する大人を見ているのが現状であり、少女のドラッグ使用も増加している。

BAD南ボストンドラッグ対策チームは、1998年に小学生対象の「フィクションではなく現実」(Fact Not Fiction Days)活動と取り組んだ。この活動の目的は、現実の生活でのドラッグの脅威について、幼い子どもに教えることである。BADは、小学校に出向き、ドラッグについて毎月数時間説明をする。

BADのボランティアは、ドラッグを使用した子どもについての実話を話してきかせ、教育的ゲームをしてみたり、良い習慣、悪い習慣についてロールプレイングをしたりしている。ターゲットは子どもであるが、学校の教師もドラッグについて学ぶことになる。

子どもは、またドラッグについて自分達の親達に話すように勧められる。BADは他のコミュニティグループ、他の施行機関、教会や大学などと多くの会合を持つので、互いに活動協力ができるようになっている。

#### <成果>

BADの活動は、その成果について評価を受け、最近になって連邦政府から資金を供給された。南ボストンチームのメンバーは、親と子どもの間でドラッグについて会話する機会が増えたことが主要な成果であり重要な点であると語っている。

### （３）暴力の防止

多くの生徒達は、学校でさまざまな暴力にさらされている。学校は、いじめに対しての防止活動を設定したり、怒りの感情をコントロールする授業を設けている。多くの学校では、紛争解決のためのコースを設けて指導している。ボストンは、市全域で取り組む「平和月間（Peace Month）」を設けている。この期間には、暴力を減らすための授業を行い、暴力防止と関連させた美術コンテストや無料音楽会等を行っている。

### （４）行動修正

行動修正のための取り組みは、問題行動を変化させ、考えるスキルを教えることに重点を置いている。多くの取り組みを通じて、生徒にどのようにして怒りや攻撃的行動を処理するかについて指導する。

これらの取り組みでは行動学的な技法を用いており、規則に従っている時は、生徒を褒める方策を使う。つまり、行動のための規範を設けるプログラムに似たものである。

しかしながら、行動修正プログラムは生徒達に自分達の行動について考えさせ（例えば、なぜ暴力的に対処しようとするのか）、行動する前にやめさせることがねらいである。

以下は、危険な若者のための特殊な学校についての事例調査である。この取り組みは、COMPASSと呼ばれる行動修正のプログラムである。

#### ・若者の非行に介入する活動——ボストン市 COMPASS の事例

若者の非行に介入する活動は、暴力的行動をしてしまった、もしくはそのような行動をする可能性のある若者に対して働きかけるものである。

COMPASSスクールは、6歳から18歳までの（22歳までとなることもある）少年少女のための、マサチューセッツ州の教育機関より認可された、創立25年の授業料全面免除の学校活動である。生徒は、ボストン近郊の多くの異なったコミュニティから登校する。学校のスタッフは有給の教師、ソーシャル・ワーカー、地元の大学からソーシャル・ワークや教育学専攻の無給のインターンなどがチームを組んで働いている。学校は90人の生徒を受け入れることができ、授業とセラピーは小グループで構成されている。

ケースワーカー（生徒のアドバイザー）は生徒の家族を訪問し、生徒と教師がより親密になるように協力する。COMPASSはまた、他の学校やコミュニティ活動

と連携する12のボランティア活動を行っている。

#### <実施内容>

生徒は、公立の学校から、COMPASSプログラムに送られてくる。非行少年・少女たちであり、ほとんどは何らかの形で暴力的行動の経歴がある者である。授業カウンセリングは、行動管理システム（behavior management system）および生活環境治療（milieu treatment）と呼ばれる心理学理論に基づいている。

まず、生徒は学校での活動、授業中の行動、学校の仲間との相互関係について目標を定める。そしてその目標を達成した者は褒められたり、特権が得られる（コミュニティのファーストフードでの昼食など）。

もし、間違った行動により目標を達成できなかった場合は、「タイムアウト」という罰が与えられる。例えば、比較的小さな問題の場合、5分間静かに1人で座らせられたりする。再度間違った行動をとった場合、次は10分間静かに1人で座せられる。

生徒はまた、問題が何であるかを認知する方法と、問題解決法を学習する。

数多くの放課後の活動があり、いつも自分の目標を達成できるような者は、学校の食堂サービスもしくは整備部門などで時給5ドルの仕事が与えられる。

この学校では、暴力防止について授業を行い、暴力が引き起こされる前にそれを防ぐための治療的介入（therapeutic intervention）の授業がある。それでもなお、教師とソーシャル・ワーカーは暴力的な生徒を身体的に抑えなければならないような事態はおきる。

このプログラムはトラブルをおこした若者に一体感を抱かせ、積極的な目標を持つように支援するものであり、若者たちに衝動的にならないよう教育するものである。

COMPASSは、ウェブサイト（[www.compassinc.com](http://www.compassinc.com)）で企業、財団、個人などからの寄付を募っている。

## 5. コミュニティを基盤とした犯罪防止策の成果

コミュニティを基盤とした犯罪防止活動のなかで最も効果をあげている活動は、次のような2つの特徴がある。

### a 多くの公共施設や団体との連携

「コミュニティを基盤とした」の含意するところは、地域社会の市民によって運営されるボランティアの取り組みであるというものである。しかしながら、ボランティア活動は通常、効果的な取り組みの1つの要素にすぎない。ほとんどの研究調査は、活動にとっては地方行政や法執行機関、学校や教会、病院のような多くのコミュニティの機関が連携することが成功のかぎであることを明らかにしている。

### b 評価

最も良いプログラムは、通常いくつかの評価的要素を含んでいる。行政からの助成や私的な寄付を確保することが、彼らの活動の成否への評価とつながっている。また、犯罪と犯罪の原因をなくすために有効な結果を得るには、活動の提供するサービスが、変更可能であったり、状況に応じて調整できるものの方がより良いようである。